

第二次地域福祉活動計画

計画期間: 2019年4月1日から2024年3月31日まで (5 年計画)

2021年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfare

とりでYOU・Iのまち

「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

(1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

(1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

(1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

(1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

(2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第二次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 令和3年度実行計画進行管理

1. 基本方針

第二次地域福祉活動計画が始まり、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」という基本理念のもと、市、地域団体、市民の協働により、地域課題を解決するべく市民全体で取り組んで行けるような、住民主体の仕組みづくりを目指します。

とりでYOU・Iプランは、第二次計画3年目となり、引き続き5つの行動目標に対して市内で行われている、市、団体等の事業、行事等を調査、把握し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 令和3年度の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大により、イベント等さまざまな事業が中止となり、地域での交流活動が低迷しました。高齢化が進む中でこうした状況は体力や認知機能の低下につながり、多くの市民に不安な日々を与えています。経済においても飲食業をはじめ多くの業種が影響を受け、業績の悪化へとつながりました。地域で少しでも安心して暮らすことができるよう、国・県・市が一体となった様々な支援や取り組みが行われていますが、社会福祉協議会においても、生活福祉資金の特例貸付や生活が困窮する世帯に対し一定の条件を満たした方に自立支援金を支給する受付業務などの支援を行いました。

コロナ禍での様々な課題がある中、今年度も地域福祉活動計画は、計画を推進するにあたり、人と人との接触が難しいことから情報収集については、対面での調査のほか電話やアンケートによる調査など工夫を凝らして行いました。

地域での「子育て支援の促進」について、自治会・町内会での世代を超えた交流活動や子どもの居場所づくりについてのアンケートを実施しました。

また、福祉体験など学校での取り組み、今後の福祉体験についての意見を反映させるためにボランティア担当の先生にアンケート調査を行いました。今回のアンケートにより多くの方にご意見をいただき、地域の実態について知ることができました。

先述のとおりボランティア団体等が行うさまざまなイベントが制限されています。そのような中、市内ボランティア団体においてもオンラインでの演奏活動などが少しずつ実施されています。

さらに、今年度からは会場で参加する(リアル)とオンライン参加の併用のハイブリット型のふれあいサロンも立ち上がり、新しい地域交流の仕組みができました。

地域の活動については、コロナ禍でも災害への備えとして防災訓練を行う地域やサロン活動など地域の絆を絶やさないような取り組みも続いています。今後も感染の恐れから、通常の活動に戻るのは難しい状況にありますが、高齢者の認知機能の低下も懸念されることから、感染対策をして、できる限りの活動の継続が望まれます。

オンラインの活用など新たな仕組みづくり、より良い地域づくりのための活動を開拓して、地域福祉活動計画にも反映させていきたいと考えます。

新しい生活様式は我々市民一人一人が受け入れ、取り入れていかなければならないものでもあります。取手市の地域性に合った活動を調査研究し、住民主体の仕組みづくりを一層取り組んでいきたいと思えます。

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	係長	氏名 寺田 一恵
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	取り組み	①	福祉に関する情報の共有促進と理解者の拡大
現状と課題	<p>市内各地にある地域包括支援センターなどで取り組んでいる座談会、講演会、出前講座等の地域推進の取り組みにより、各地で市政協力員、民生委員児童委員、ボランティア、福祉施設、高齢者団体、障害者団体等と連携を図っていることがわかってきました。また自治会などでも防災訓練や夏祭りなどのイベントをとおして地域のコミュニティー作りに熱心に取り組んでいるところも多く見られ、市役所や地元の商店、施設などの協力や支援もある地域があることもわかりました。</p> <p>コロナ禍により、昨年は様々な活動が中止または制限される中、地域においても活動方法を模索しながらの状況のようでした。そのような中でも、地域のつながりを深めてもらうためにも、引き続きどのように効果的に情報発信をしたらよいかの検討が必要と思われれます。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 市民の福祉ニーズについて調査します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：ワークショップ・座談会等の把握（継続） （地域課題の集約、地域の特徴を把握：未実施の地区などの把握） ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：各地域包括支援センターへの調査、収集した情報のまとめ <p>(2) 情報発信について適切な方法で随時必要とされている情報を発信することに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：地域の福祉マップの調査（継続） 他市町村社協等の調査（先進地の取り組み等について） ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：収集した情報のまとめ、情報発信の方法の検討 		
令和3年度の実施状況	<p>今年度は、地域包括支援センター（4か所）へのアンケート調査を行い、現状の把握に努めました。</p> <p>送付先：市内地域包括支援センター 第1圏域 地域包括支援センターはあとびあ 第2圏域 地域包括支援センター緑寿荘 第3圏域 地域包括支援センターさらの杜 第4圏域 地域包括支援センターなごみの郷</p> <p>アンケート内容概要：1) 地域の特徴 2) 地域の社会資源について 3) 座談会等の開催について 4) 現在実施している活動について 5) 地域課題について 6) 地域の情報発信について 7) 福祉マップについて</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		10月～3月	4	各地域包括支援センターにおいて、コロナの影響がある中、地域への支援を模索しながら取り組んでいることが分かりました。座談会やワークショップについては、条件付きで開催できている所もあれば、開催できていない所もありました。地域課題としては高齢化、地域の人材不足、高齢者の移動手段不足等が上げられていました。地域の情報発信については、インターネット等で情報を得られる方が増えてきている一方で、高齢者の方はチラシや近隣の方からの情報、口コミ等で情報を得ている方が多いとの回答で、そのような状況に対し、各地域包括支援センターにおいては、高齢者訪問でのチラシ配布、出前講座等での情報提供やチラシ配布、地域のキーパーソン（民生委員等）への情報提供等を行っているとの回答がありました。このアンケート結果を踏まえ、適切かつ効果的な情報発信の方法について、引き続き検討を進めていきたいと思ひます。	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域においての情報発信は世代に合わせた方法が必要であり、どのような媒体が効果的か今後も検討が必要と思われる。発信する情報についてのニーズについても調査が必要と思ひれます。 ・他社協については、令和3年度実施できなかった為、令和4年度継続して取り組みます。 				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> ・社協においては、ホームページ、フェイスブック等や社協情報誌があり、今後、地域の皆様が知りたい情報を発信できるよう努めていきます。 				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> (1) については、行政、取手社協、地域包括との連携や情報共有 (2) については、行政、取手社協、地域の自治会、町会等との連携や情報共有 				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		令和4年7月～令和5年3月	(1) (2) 共通して、地域において福祉についての必要な情報はどのようなものか調査を継続するとともに、その情報の適切な発信方法等を検討していきます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉ニーズの把握は地域包括支援センターの協力が最大情報源。社協としての役割期待しています。 ・地域包括支援センターへの調査結果をふまえた社協としての取り組みを具体化していただきたい。特に高齢者の移動手段不足は切実な問題であるので、住民のニーズを把握する手立てを講じる方法を考えていただきたい。 					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度			
担当者	職名	係長	氏名	濱田 正之
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進	
	取り組み	②	福祉教育アプローチの構築	
現状と課題	<p>学校や自治会等での福祉体験についてその内容をまとめた「やさしい心の種をまく」を市内小中学校等に配布し活用して頂いております。</p> <p>さらなるボランティア活動の活性化、「やさしい心の種をまく」を充実させ、より活用してもらうことを目的にボランティア団体の指導者等を対象にした研修会「福祉教育研修会」を実施したいところですが、昨年までコロナウィルス感染症の影響を受けて調査が進んでいないのが現状です。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 学びの場である学校で福祉についてもより深い知識の習得に向けて福祉教育研修会を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内の学校、地域での取り組みの活動内容について（継続） 受け入れ先、協力いただける機関について（継続） （地域ごとに抱えている問題点についても把握したい） ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：取手市教育委員会指導課等への現状聞き取り実施、まとめ 受け入れ先、協力いただける期間についてのアンケート実施、集約 			
令和3年度 の実施状況	<p>市内30の小、中、高校のボランティア担当者を訪問「やさしい心の種をまく」を配布、合わせてアンケート調査をお願い、現状の把握に努めました。</p> <p>各学校の事情やコロナの影響が残る中での新しい形を模索されていることが分かりました。皆さん関心を寄せて頂いている事がわかり、新しい取り組みやご意見も頂くことが出来ました。合わせて今回は直接ボランティア活動を担当する先生方と繋がることのできたのは大きな収穫でした。学校との関係性の継続をねらいにボランティア担当が変われば引き継いでいただくようお願いしています。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		9月～ 3月	4	コロナ禍で外部との接触の機会が失われていたところでしたが、早速、オンラインでの講話など新しい形の依頼もありました。前向きに検討して頂いている学校が多く、その他にも今後の参考となる意見も頂きました。	
	課題				
	ニーズの把握と担当者とのつながりを持つことが出来たので、実際に提供等出来る支援プログラムの充実を図るべく協力団体等の方について今一度調査し多くの団体からご協力を取り付けたいと思います。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	小、中学校よりも高等学校について新たなメニューや取り組みについてより幅を広げる必要性があります。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	引き続き情報の収集とともに、協力団体の獲得を目指します。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		4年4月 ～ 4年9月	支援プログラムの充実を目指した協力団体に対する調査および依頼		
	4年10月 ～ 5年3月	福祉教育研究会実施に伴う情報交換			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会にあたってボランティア活動に携わる人材不足問題は深刻さを増してきています。そんな中で将来へ向けて『やさしい心の種をまく』の教育現場へのアプローチは不可欠です。特に高学年の生徒、高校生などは即戦力に繋がる年代であり、昨年に続く小中高教育機関へのアプローチ取り組みに期待しています。 ・特に学校へのアプローチは、先生方の日頃の教育活動の忙しさ等で福祉教育、体験まで手がまわらない現状があると思いますが、ねばり強く働きかけていただきたい。 					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度			
担当者	職名	係長	氏名	橋本睦
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	取り組み	①	新たなボランティア活動の推進、地域への参画	
現状と課題	取手市の課題や地域課題について地域や団体等で様々な意見交換ができる場があれば、情報を共有し、地域のことについて考えるきっかけになります。小地域での話し合いができる環境作りが必要です。また、様々な地域課題を解決できるような人材育成、ボランティアの育成、サービスの創出が望まれています。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 出前講座を有効に活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：ボランティア団体や自治会町内会で様々な出前講座が行なわれています。地域の方々や団体に対し効果的な出前講座の紹介について研究します。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：様々な出前講座について調査し一覧にします。 <p>(2) ボランティア講座から自主的な活動につながる人材育成が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：実際のボランティアにつながる講座について研究します。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：ボランティア活動に直結するボランティア講座を開催します。ボランティア講座を研究し一覧にします。 			
令和3年度 の実施状況	<p>(1) ・市内外で行われている出前講座について調査し一覧にしました。生活に関する様々なジャンルがあり、地域の方々に知ってもらい開催しやすい環境づくりについても考えていきたいと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の安全安心対策課では防災訓練などの際、1区画分のワンタッチテント、段ボールベッドや組み立て式の仮設トイレなどを使って避難所での備品の設置の仕方、注意点を説明して実際の災害が来た時のシュミレーションを各地で行っています。 ・ふれあいサロン花水木では防災講演会を実施しました。光風台の自主防災会の方が避難についてやコロナ禍での注意点等、地域防災についての講話を行いました。 ・地域包括支援センター藤代なごみの郷では宮和田小学校4年生に対して認知症サポーター養成講座、江戸川学園小等部では伊奈特キャラバン隊による障害のある方についての講話をオンラインで行っています。様々な出前講座を行い福祉への関心や地域課題についての取り組みが行われています。 <p>(2) 11月に傾聴ボランティア講座を社協主催で開催しました。5名の方が傾聴について学習し、講座終了後には実際にボランティアとして活躍できるよう傾聴ボランティア「みみともの会」に登録していただき自宅での傾聴をしていただく予定です。移送サービス運転認定講習会を6月と11月に開催しました。16名の方が受講していただき、残念ながら全ての方は団体登録ということにはなりませんでしたが、将来的に活動することが期待されます。</p>			

進行 管理	成果 状況	7月～ 3月	4	<p align="center">成果状況に対する説明</p> <p>(1) 取手市内の予想される災害として水害や土砂災害など危惧されるところがあり、危機感を持っている地域が多くあります。市民も避難所についてなど災害時の対策には関心を示しているため、実際の避難を想定した避難訓練、避難所運営などの出前講座は有効と考えられます。また、地域の方々が見守る姿勢を教育の現場でも知ってもらうため認知症の理解として学校でも認知症サポーター養成講座などを行っています。役立つ内容で様々な講座を行っているため、広報を充実して各地域で実施していただくよう広報していきます。</p> <p>(2) 傾聴ボランティア、移送サービスについては利用者が増えている状況にあり、講座から実際に活動する方が増えるよう今後も広報して、多くの方に受講していただきボランティア活動に参加してもらうよう継続して周知していきます。</p>
				<p align="center">課題</p> <p>(1) 地域の課題解決については市民が期待しているところだと思いますが、地域の活動を行う自治会町内会の運営者の高齢化、課題解決に結びつける為の余力がない状態が続いています。地域のあり方についての変革が必要と言えます。</p> <p>(2) ボランティアに関する講座の受講生については減少傾向にあり、ボランティア活動の低迷が続いています。ボランティアにつながる講座への参加につなげる周知に関して広報の充実を図っていきたいと思います。</p>
	<p align="center">課題解決のための改善内容・取り組み方針</p>			
	<p>(1) 地域活動についての子育てサロン、多世代交流サロンなど若い世代の地域参画や学校との協力、子どもと保護者による地域活性につながるボランティア活動など、地域活動について、新しいしくみづくりが必要となってきます。</p> <p>(2) ボランティア講座についてはボランティア活動に直結するような講座を実施し、広報についてはその講座に興味関心を持ってもらえる対象者に届ける方法について研究します。</p>			
	<p align="center">協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)</p>			
	<p>(1) 地域の課題について学校や自治会町内会と共有し、それぞれが協力できる内容について話し合う機会を持ち、協力体制を構築してきます。</p> <p>(2) 移送団体、先進社協の情報提供、共通の課題について話し合う機会を持ち、今後の方向性について研究します。</p>			
	今後の 方向性	期間	<p align="center">今後の方向性の説明</p>	
		4年4月～ 6年3月	<p>(1) (2) 前年度の地域の取り組みを整理し、効果的な方法をまとめ地域性と関係機関についてさらに深掘りしていきます。</p>	
		年 月 ～ 年 月		
	<p align="center">取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</p>			
<p>・ 高齢化が進む中、若い世代やリタイア直後の人々にボランティア活動に関心を持ってもらえるような出前講座やボランティア講座等の効果的な開催方法を模索してほしい。(対象地域や団体、日時設定の工夫等)</p> <p>・ 近年は教育・介護・日常生活などへのオンライン・IT化の取り入れといった時代の変化が進んでいる現状を踏まえ時代のニーズに合った新たなボランティア活動担い手の育成による地域への参画も重要な課題となっています。関係機関等との連携も含め取り組みを期待します。</p>				

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	取り組み	②	次世代（若者）担い手の育成、拡大	
現状と課題	<p>近年自然災害が多発しています。災害発生に備える為、平常時の準備が必要となります。災害に対する知識や対応を広く市民に知ってもらう機会を設けて市民全体で考える意識づけが大切になります。また、災害以外でも地域のことについて子どもの頃から地域の行事に参加するなど地域交流が自然にできることが望まれます。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 地域防災について学びの場を作ります。 ・実施内容：地域防災についての研究し、実際の災害が起きた時に対応できるような学習の機会を持ちます。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：災害の知識や地域防災についての研修会を開催します。</p> <p>(2) 子どもの頃から自分の地域を学ぶ機会を作ります。 ・実施内容：自分たちの住む地域での活動について知ってもらい地域交流活動に参加してもらうような仕組みを作ります。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：地域交流の推進、地域の団体やイベントの参加につなげます。</p>			
令和3年度 の実施状況	<p>(1) 地域防災について学びの場をつくりまます。 安全安心対策課ではコロナ禍での避難所運営について段ボールに代わりワンタッチテントにして家族単位の区切をしています。市で400所有していて各地域での防災訓練などで紹介しています。防災訓練では段ボールバットの組み立てやテント設置、収納の仕方など訓練を行なわれました。旧白山西小、藤代小2ヶ所同時にコロナ対策をした上での避難所立ち上げ訓練が行われました。社協としては10月に行なわれた中央タウン戸建て、高層と稲地区での中央タウン合同防災訓練において車いす体験コーナーをボランティアと社協職員で指導を行いました。ボランティア団体では花水木での防災に関する講話、取手紫水高校での自衛隊員の防災講演会など様々な防災の取り組みがコロナ禍でも行われています。</p> <p>(2) 子どもの頃から自分の地域を学ぶ機会を作ります。 ・江戸川学園小学校4年生対象の福祉体験学習において障がいのある方を知ってもらうための寸劇を交えた講話を行なっている伊奈特キャラバン隊のオンライン授業が行われました。 ・地域の高齢者との交流活動の一環として取手小学校の5年生が近隣のふれあいサロンや給食サービスの利用者や高齢者施設利用者に向けてクリスマスカードを配布しました。</p>			

進行 管理	成果 状況	7月～3 月	4	<p align="center">成果状況に対する説明</p> <p>(1) コロナ禍での避難所について受付での検温や消毒、避難所での備品など感染予防をしながらの被災者支援は災害時にさらなる混乱を招く要素となるため広く市民に知っていただく機会が必要となります。様々な地域で防災と感染予防をセットで行うことで実際の状況新しい避難についてを知っていただけたと思います。また、災害発生時にの備えについても理解していただけたと思います。</p> <p>(2) ・伊奈特キャラバン隊の福祉体験授業では障害のある方についてや地域の障害者について理解を深める活動を行なう団体についても知ってもらうことができました。</p> <p>・取手小学校の取り組みとして地域に暮らす高齢者に対する想いをメッセージカードに書いたものを高齢者も返事を受け取り書面上ではありますが、交流ができています。</p>
				課題
	<p>(1) 災害に対する備えとして防災訓練についてコロナ禍での実施が困難でなかなか難しい状況ではありますが、有事には感染予防対策など実際に災害が起きた時の備え、訓練は必要不可欠なため、人を集めてではなくてもマニュアル化し、行動できるよう各人が知識として習得が必要です。</p> <p>(2) コロナ禍での地域交流は難しい状況にあります。直接的な交流は難しいためメッセージカードやオンラインでの交流を他の地域でも実施できるよう広報していきます。</p>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>(1) 地域防災については継続して安全安心対策課の地域防災の取り組みや自主防災会での避難訓練等に参加し平時からの協力体制を構築して地域防災についての最新情報について研究し、地域に向けて発信していきます。</p> <p>(2) 学校や地域の自治会町内会等を結ぶ地域交流について先進的な地域の研究や地域イベントの開催などについて調査していきます。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>(1) 地域防災については継続して各地域の自主防災会や安全安心対策課と協力しながらコロナの対策や様々な変化についても対応できるように平時より協力体制を整えていく必要があります。</p> <p>(2) 学校や地域の自治会町内会等を結ぶ、地域連携地の仕組みづくり地域交流イベントなど仕組みづくりを考えます。</p>			
	今後の 方向性	期間	<p align="center">今後の方向性の説明</p>	
		4年4月 ～ 6年3月	<p>(1) (2) 前年度の地域の取り組みを整理し、効果的な方法をまとめ地域性と関係機関についてさらに深掘りしていきます。</p>	
		年 月 ～ 年 月		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<p>・学校の取り組みが、地域に波及する例は各地で見られます。それぞれの地区での地域波及の他、市内他地区への広がりも期待します。</p> <p>・頻発する災害発生に即応出来る体制づくりは命と暮らしを守る喫緊の課題とされます。近年は特にコロナ感染などの問題もあり、防災訓練・避難誘導なども新たな視点での取り組みも不可欠であり町会・防災会や関係機関などとの連携も含め更なる工夫・研究に努められることを期待します。</p>				

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	課長補佐	氏名 佐藤 晶彦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	取り組み	①	安全に暮らせるまちづくりの推進（バリアフリー）
現状と課題	<p>地域の課題として、普段生活をしている際に日常生活上危険や不便を感じる場所があり、子ども、高齢者、身体の不自由な人が移動するのに不安を感じることや地域でのつながりが希薄になっている状況において、近年、想定外の災害がおきるため、地域でお互い助け合うことが困難になるのではないかと不安に感じている状況があります。しかしながら、地域によっては、児童登下校の見守りのスクールパトロールや防犯パトロール等に取り組んでいるところもあり、地域住民の共助によって様々な取り組みがなされているところもあります。危険度エリアマップについては、地区役員及び住民代表参加のもと現地調査を実施し、地区全域の危険箇所等を盛り込んだ防災マップを作成し全戸配布している地域や不明な地域、危険箇所の確認はしているものの、取りまとめた情報がない等、地域によって状況が様々です。緊急支援ボランティア育成については、自主防災メンバー中心に災害発生時の対策本部を設置・救援体制の整備強化を図っている地域や緊急時に体制を整えている地域等もありますが、今後の課題として認識している地域の方が多いように思います。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。 ・実施内容：現状の地域における危険箇所等についての情報・マップ作成等状況の調査（関係団体、市民レベルにおいて） ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。 ・実施内容：現状の地域における見守り、防犯等の取り組み状況についての調査（行政、関係団体、市民レベルにおいて） ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。 ・実施内容：緊急支援等ができるボランティア育成への取り組みの調査（行政、市社協、関係団体レベルにおいて） ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p>		
令和3年度の実施状況	<p>※ 今年度については、下記の各取り組みについて行政、関係団体等への聞き取りを行う予定でしたが、緊急事態宣言発令等、新型コロナウイルス感染症予防の観点から訪問や面談等を控えた為、情報収集の調査は実施できませんでした。 危険度エリアについては、障害者の方に話を伺うことができました。マップを作成はしていないが、日常生活している中で、危険な場所があれば都度、行政等に連絡をし対応してもらっています。年1回はバリアフリー探検隊として取手市内を歩きながら危険な箇所を見つけたりしています。</p> <p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。 ・実施内容：現状の地域における危険箇所等についての情報・マップ作成等状況の調査（関係団体、市民レベルにおいて）</p> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。 ・実施内容：現状の地域における見守り、防犯等の取り組み状況についての調査（行政、関係団体、市民レベルにおいて）</p> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。 ・実施内容：緊急支援等ができるボランティア育成への取り組みの調査（行政、市社協、関係団体レベルにおいて）</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		8月～3月	3	<p>来年度についても、コロナウィルス感染症の感染状況に配慮しながら、可能な方法を模索し調査を継続します。</p> <p>以下の課題から今後の方向性については、令和3年度の内容を継続する為、その課題等々についても継続した内容とします。</p>	
	課題				
	<p>・調査が十分ではない為、地域の取り組みが把握できていないことも考えられます。また、地域での小さな取り組みについても重要な社会資源と考え、情報収集及び集約が必要と思われます。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>・それぞれの課題について先進的に実施している地域、団体、担当課等にどのように組織化、運営等を行っているのかを具体的に調査します。また、できる限り障害者の方個人に対しての聞き取り等も含めて調査します。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>(1) については、取手市安全安心対策課等と取手社協ボランティア支援センターの協働・連携 行動目標4-①との協働・連携</p> <p>(2) については、取手市高齢福祉課、地域包括支援センターと取手社協地域支援係との協働・連携 行動目標4-①、4-②との協働・連携</p> <p>(3) については、取手市社会福祉課等と取手社協ボランティア支援センターの協働・連携 行動目標2-①、②との協働・連携</p>				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		令和4年4月～令和5年3月	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します</p> <p>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p>		
令和4年4月～令和5年3月		<p>(2) 地域見守り隊の活動の支援に努めます</p> <p>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p>			
令和4年4月～令和5年3月		<p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします</p> <p>・先進的に取り組んでいる地域への聞き取り、集約</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<p>・誰にとっても重要な課題ですが、中でも子供・高齢者・身体の不自由な人が日常生活を営む上で移動・防犯等への配慮は優先されると思います。今後とも関係機関などの連携を取り体制づくりに努めてほしいところです。</p> <p>・「成果状況」にあります、コロナウィルス下においても可能な調査について、このような取り組みを模索している等、構想を伺いたいです。</p>					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	佐藤 晶彦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>地域の課題として、低所得、独居化、家族関係の希薄化が進む中、現状の福祉サービスだけでは不十分な人への支援をどのようにしたら良いかとの不安等があり、自分の困っていることや福祉全般の相談について気軽に相談でき、援助してもらえるサービスメニューについて分かりやすく教えてもらえるような総合相談体制が欲しいとの希望があります。一部の地域では、困った時は民生委員、包括支援センターへ相談しているひとが増え、ご近所、近くの友人同士の結びつきも機能しているようではありますが、現在もどこに相談すればよいか分からず困っている方々もいます。ニーズに対する仕組みや体制は整いつつありますが、どこにいけば相談できるのか、相談しても良いのか等の意見が現在もあり、地域によって取り組みへの格差や、どのように取り組んでいけばよいか分からないという状況があります。ただ、地域によっては、圏域内外の地域資源を冊子にまとめ、社会資源情報を速やかに提供できるように整備し情報を常に更新し、関係機関と共有している地域や電話、訪問等で個別対応している地域もあります。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。 ・実施内容：現状の困りごと等への相談の仕組み、連携等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて) ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。 ・実施内容：現状の地域での助け合いへの取り組み、啓発活動等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて) ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。 ・実施内容：現状の地域において訪問活動等の取り組みの状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて) ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：地域包括支援センター、ボランティア団体等への聞き取りの実施及び情報集約</p>			
令和3年度の実施状況	<p>※ 今年度については、下記の各取り組みについて各地域包括支援センター、関係団体等への聞き取りを行う予定でしたが、緊急事態宣言発令等、コロナウイルス感染症予防の観点から訪問や面談等を控えた為、情報収集の調査は実施できませんでした。 伊奈特別支援学校、地域の相談支援事業所に訪問し、保護者等のニーズの聞き取り、現状の障害者の状況等の聞き取りをおこなうことができました。共働きで時間に制限があり、夕方まで預けられる施設が少ない、将来的に入所検討しているものの、ここ数年グループホームが多くできてきている中で、施設の特徴等が分からない等の意見もありました。自立支援協議会、相談支援事業所、行政と連携しながら対応していく必要があると感じました。自立支援協議会では、障害福祉サービス事業所一覧の冊子、障がい福祉マップの作成を検討している状況です。</p> <p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。 ・実施内容：現状の困りごと等への相談の仕組み、連携等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。 ・実施内容：現状の地域での助け合いへの取り組み、啓発活動等の状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。 ・実施内容：現状の地域において訪問活動等の取り組みの状況の調査 (地域包括、関係団体レベルにおいて)</p>			

	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	8月～3月 3	<p>来年度についても、コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、可能な方法を模索し調査を継続します。</p> <p>以下の課題から今後の方向性については、令和3年度の内容を継続する為、その課題等々についても継続した内容とします。</p>
課題			
<ul style="list-style-type: none"> どこに行けば相談できるのか、相談してもよいのか等の意見がある中で、ニーズに対応する仕組みや体制については、今後も連携を取りながら対応していく必要がある。 地域における取り組み状況にも差がある。どのように取り組んでいけばよいのか分からない。 			
課題解決のための改善内容・取り組み方針			
<ul style="list-style-type: none"> 地域における取り組みと行政、取手社協との連携・協働の強化、情報発信の強化。 地域において、気軽に話ができる場所、機会をつくり、その場所においても相談窓口の情報が分かるようにしていく（マップ等の配布含む）。 			
協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
進行管理	<p>(1) については、取手市福祉部と取手社協相談支援係の協働・連携 行動目標 1-①との4-①との協働・連携</p> <p>(2) については、取手市市民協働課、福祉部及び各地域包括支援センターと 取手社協地域支援係の協働・連携 行動目標 1-①、4-①との協働・連携</p> <p>(3) については、取手市福祉部及び地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携 行動目標 2-①、4-①との協働・連携</p>		
	今後の方向性の説明		
今後の方向性	期間		
	令和4年4月～令和5年3月	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター、相談支援事業所、自立支援協議会、ボランティア団体等への聞き取り、集約 	
	令和4年4月～令和5年3月	<p>(2) みんなで守る意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約 	
令和4年4月～令和5年3月	<p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約 		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> 社会環境の変化が激しい時代にあって幅広い年代で悩み事を抱える人も増える傾向にあるようにも思えます。地域において気軽に話ができる場所・機会づくりによるなど相談支援体制・活動の充実に向けた取り組みに期待します。 コロナ禍で相談件数が増していることと思います。いくつもの相談窓口があって利用者は困惑しています。窓口の一本化とPR活動強化をしてほしいです。 			

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	係長	氏名 新木 勇人
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	取り組み	③	ふれあいの機会を増やします
現状と課題	<p>世界的な環境の大きな変化により、ふれあうことの意味について、今までにない形への変容が求められています。</p> <p>特に感染症への備えについては課題が多いところです。そこで私たちは既存の枠にとらわれず「いろいろなかたちの支援」を模索しています。</p> <p>制限があるなかにも「人の役に立ちたい」「新たなコミュニケーションをとりたい」という、人としての根源的な欲求は変わらないものと考えます。それは支援を提供する側も、される側も同様です。</p> <p>以上について、具体的な手段・方策を提案することが課題になっています。</p>		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内で実施されているイベント等の状況を調べ情報提供の準備をします。(行政、市社協、関係団体、市民レベルにおいて) ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：取手市・市民協働課、市社協、関係団体との情報共有・共催。 <p>(2) 福祉施設との交流の機会について内容を検討し、参加方法等について提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内福祉施設での地域住民・学生等との交流について多様な方法を模索。(行政、市社協、関係団体レベルにおいて) ・実施期間：令和4年3月までに ・達成目標：高齢福祉課、地域包括支援センター、関係団体との相互理解・情報共有。 		
令和3年度の実施状況	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施状況：「気軽に」をキーワードとして、社会情勢を鑑み、感染症対策指針に沿って開催内容を模索しています。 <p>(2) 福祉施設との交流の機会について内容を検討し、参加方法等について提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施状況：見学者の受入れ、地域を限定した販売会などの実施を少しずつ取り入れていきます。 		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		8月～3月	3	<p>実施されている部分もありますが不十分な点が多い状況です。</p> <p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。 いわゆる感染経路が互いに明確であることを目安に開催を目指しますが、感染予防について共通の認識が持ちにくい状況が続いています。</p> <p>(2) 福祉施設との交流の機会について内容を検討し、参加方法等について提案します。 上記の目標について、施設の利用者も、そこに参加するボランティアを中心とした方々も交流の機会を望んでいることに変わりありません。</p>	
	課題				
	<p>前例のない社会情勢の中で、いち早く効果的な交流方法を把握して、発信することが課題です。明確な答えは得られないことに留意しつつも、新たなアイデアを、安全に、広く開かれた形で提案できるよう、組織と個人の力を集約して取り組み続けます。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの実施について感染対策後のイベント（主に取手市、取手社協）について把握します。 ・ 安心して参加できるイベントについての広報活動・啓蒙啓発活動を検討します。 ・ 世代や障害の有無にかかわらず参加できるイベントの企画と提案を検討します。 				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>(1) について、取手市市民協働課、福祉部各課と取手社協の協働・連携・情報共有。 行動目標2-②との協働・連携</p> <p>(2) について、取手市市民協働課、取手社協の協働・連携・情報共有。 行動目標2-②、4-②との協働・連携</p>				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		令和4年4月～令和5年3月	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します ・ 取手市市民協働課、ボランティア団体との協働。</p>		
	令和4年4月～令和5年3月	<p>(2) 福祉施設との交流の機会について内容を検討し、参加方法等について提案します。 ・ 障害・社会・高齢福祉課、地域包括支援センター、ボランティア団体との協働。</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも気軽に参加できるイベント等の開催へ向けた取り組みは現下のコロナ感染問題への対応なども加わり大変だと思いますが、実現に向けた意気込みに期待したいと思います。 ・ 「成果状況」にありますが、多くの方が交流の機会を望んでいますので、コロナウイルス下でも行える「ふれあいの機会」づくりに期待します。 					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	主事	氏名
			亀井愛夏
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう—連携強化と拠点づくり
	取り組み	①	地域拠点づくりの促進
現状と課題	<p>少子高齢化が進む現代で小地域活動の活性化は必要不可欠です。町内会(自治会)活動の必要性について市民が理解し、参加できる仕組みづくりができれば、小地域でのささえあい、助け合い活動へとつながります。地域の課題についてもわがことと考え積極的に地域の活動にかかわれるような仕組みづくりや町内会(自治会)の活性化が必要です。</p>		
事業・業務の具体的内容等(何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) あいさつが交わせる地域づくりに努めます。 ・実施内容：小地域活動の推進、コロナ禍での新たな地域助け合いについて研究します。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：コロナ禍での助け合い活動について成功事例等、地域の活性化についてまとめます。</p> <p>(2) 町内会(自治会)への加入促進に努めます。 ・実施内容：町内会(自治会)への成功事例等の研究 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：町内会(自治会)先進視察を行い、成功事例についてまとめます。</p>		
令和3年度の実施状況	<p>(1) 高須地区でのサロンづくりの取り組みを取材しました。 毎週木曜日9時30分～13時開催。 ドコモショップ佐貫店に協力いただきスマホ教室を定期的開催、またマイナンバーカードの講演など問題や課題ができたときに関係部署に相談をして講座を開催しています。</p> <p>(2) 井野団地自治会の取り組みについてや戸頭町会お助け隊の設立の話の聞き取りによりどのような活動をしているかを調査しました。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～3月	3	<p>(1) 高須地区ではスマホ教室や地域で知りたい内容や困りごとなど住民の要望を集会所で出前講座を開催して課題解決をする取り組みをしています。地域のニーズを解消できるサロンへ展開できれば、娯楽から社会課題を解決する新たなサロンとして期待が出来ます。</p> <p>(2) ・戸頭町会に加入している方を対象としたお助け隊を開催することで、町会への加入促進につながり担い手も町会員なので近所の知り合い通しの助け合い活動として身近なものとして受け入れやすい活動になっています。 ・井野団地では要介護者のマップ作りなど地域住民の災害対策など地域の実情を把握し課題解決へ向けた取り組みが行われています。</p>	
	課題				
	<p>・地域の活動を推進するための人材が必要です。活動を始めるきっかけづくりや地域で交流する場所の確保が必要になります。</p> <p>・高齢化により様々な地域でゴミ出し等ちょっとした困りごとを解決する仕組みが必要になってきます。お助け隊のような活動ができる担い手の育成が必要です。地域で活動するための組織作りが高齢化により難しい状況ではありますが、エリアを絞った小地域での活動が展開できれば、対象者を絞ることができると考えます。小規模の担い手で活動ができるメリットがあるため自治会町内会単位での活動が数多く存在することが期待できます。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>(1) 他地区での活動が可能かとプログラム作りについて、組織作りと人材発掘、育成などについて研究します。</p> <p>(2) お助け隊の養成講座や仕組みづくりについて講習会の開催を検討します。井野団地のマップ作りや安全対策への取り組みについて研究します。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	場所の提供や人材育成を含め自治会との協力が必要不可欠ですが、自治会の活動も高齢化により事業拡大は難しい状況にあります。若い世代につなげるため、学校や学生ボランティアとの連携も必要になります。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		4年4月～6年3月	人材育成や若い世代に繋げるための方法を模索していきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<p>・お助け隊の養成や仕組みづくりはボランティア活動に関心を持つ人の受け皿の一つともなります。個々人の能力を更に発揮できるような場所づくり仕組みづくりに期待します。</p> <p>・調査によって得られた好事例について、市内他地区との共有や今後の学校との連携について期待します。</p>					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しようー連携強化と拠点づくり	
	取り組み	②	関係機関との連携体制作り	
現状と課題	<p>コロナ禍で人の集まるイベント等が開催中止になり、コミュニケーションの必要性を多くの人が実感している時ではありますが、様々な団体がそれぞれの強みで、協力し合い新たな活動が生まれることが期待されます。地域には様々な団体があり、福祉団体等での活動の他、企業の社会貢献活動もあわせて市民との協働により、福祉分野のみならず地域での一体的な地域づくり、まちづくりを行えるような関係性が望まれます。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 関連団体との連携を強化します。 ・実施内容：教育分野、福祉施設、様々な団体の意見交換の場の構築 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：教育、福祉団体等の他、団体の選定をし、意見交換会を開催します。</p> <p>(2) 企業との協働、協賛により福祉イベントを開催します。 ・実施内容：企業での社会貢献活動の調査研究をします。 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：様々な企業で行っている社会貢献活動を調査し、市民に提供できる仕組みについて調査し、一覧にします。</p>			
令和3年度の実施状況	<p>(1) 高校生がボランティア活動など社会貢献を学ぶふれあいサロンUNSAMで現在行っている子ども食堂でのボランティアの他取手市内の地域活動やボランティア活動についてさらに多くの活動を学んでいただくよう、提案するため社協職員と地域課題を話し合う機会を持ちました。様々なボランティアに発展するようボランティア会議に関係者を集めて話し合いを持ちました。</p> <p>(2) ・いばらきコープ、カスミに出前講座について聞き取りを行いました。 いばらきコープでは食育講座、減災教室の講座を一般向けに行っています。地域のお年寄りに対して食事会を開催することができる「ふれあい給食会」県内2ヶ所で開催しています。 カスミでは幼稚園保育所小学校を対象として食育の出前講座を行っていることがわかりました。</p> <p>・こころ子ども食堂では企業の提供品を活用して12月にクリスマス会を開催しました。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～3月	3	<p>(1) 若い方がどのようなボランティアができるか話し合いの場を設けることで若いボランティアの可能性、新しい活動について見出すことが出来ました。</p> <p>(2) 企業の提供品などを活用してイベントの開催や企業で行う出前講座など企業行っている様々な地域と連携しながら行う活動から新たな仕組みづくりにつなげる社会貢献活動を知ることができました。企業と地域をつなぐ情報については今後発信していけるようさらに調査を続けます。</p> <p>・地域の方々に紹介し、地域で暮らす方の課題解決になるような講座を調査しましたが、コロナ禍で従来の活動ができないところや内容の変更するところがありました。</p>	
	課題				
	<p>(1) 取手市のような高齢化が進んだ地域では今後様々な地域課題を解決するために若い方の参画が必要になってきます。今後も話し合いを持つ機会を継続して地域福祉について福祉教育と併せて考える必要があります。</p> <p>(2) 企業の社会貢献と地域をつなげる為、イベントや出前講座など地域の方に活用していただけるよう広く多くの人に知ってもらうような情報提供について研究し、各地域で展開できるようにします。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>(1) UNSAMから様々なボランティアに発展するよう定期的に様々な分野の方を集めて話し合いを持ち課題解決につながるボランティア活動について話し合います。</p> <p>(2) 様々な活動について得た情報は地参地笑CDに入れて配布し、地域の方に活用していただきます。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>(1) 地域での拠点という観点から公民館や自治会館、集会所を利用するため、市や自治会町内会との連携を取り課題解決に向けた人材の情報提供に協力してもらいます。</p> <p>(2) イベントの主旨を理解してもらい企業と地域活動を結び付けて活動展開を目指します。</p>				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		4年4月～6年3月	(1) (2) 前年度の地域の取り組みを整理し、効果的な方法をまとめ地域性と関係機関についてさらに深堀していきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<p>・「成果状況」(1)にあります、学生ボランティア等との話し合いの場で得られた、可能性・新しい活動について、どのようなものであるか、お話を伺いたいです。</p> <p>・地域との共生が社協の務めと存じます。自治会・町内会・その他関係機関との体制づくりにご尽力ください。</p>					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	係長	氏名
			長谷川弘典
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もうー子育て支援
	取り組み	①	子育て支援の促進
現状と課題	<p>現代の子どもたちを取り巻く環境は、核家族化や共稼ぎ世帯の増加などを理由に変化しております。そして児童虐待を始め、孤食や貧困問題など様々な子育て、子どもたちに対する課題が大きく取り上げられております。その中で、地域で子どもたちを育むという意識も希薄であるように感じられ、多くの人が参加できる子育て支援に関する行事や、親子でふれあう機会が減少しており、子どもの置かれている状況を地域が把握できなくなっています。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>(1) 親子交流の場を整備します。 ・実施内容：市内における「親子交流の場」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係団体、自治会、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和4年3月までに実施 ・達成目標：市内における「親子交流の場」に関する実態の把握</p> <p>(2) 家族が地域とふれあう機会づくりをします。 ・実施内容：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係団体、自治会、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和4年3月までに実施 ・達成目標：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」に関する実態の把握</p> <p>(3) 地域住民のネットワークを整備します。 ・実施内容：市内における「地域住民ネットワークの整備」に関するアンケート調査を、子育てに携わる関係団体、自治会、ボランティア等に対して実施 ・実施期間：令和4年3月までに実施 ・達成目標：市内における「地域住民ネットワークの整備」に関する実態の把握</p>		
令和3年度 の実施状況	<p>「子育て支援の促進」について、下記のようにアンケート調査を実施しました。</p> <p>送付先：自治会 送付：令和3年12月13日 回収：令和3年12月27日 アンケート内容：(1) 親子交流の場 (2) 家族が地域とふれあう機会づくり (3) 地域住民のネットワークの整備</p> <p>以上の項目について実施している行事について可能な範囲で記入して頂きました。</p> <p>※コロナウイルス感染予防の為、今年度は実施できないが今まで行ってきたイベントや今後予定している活動も含めてご記入いただいています。</p>		

	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月 4	(1) 親子交流の場の整備及び(2) 家族が地域とふれあう機会 夏祭り、餅つき大会、子ども神輿等、親子交流を通して家族が地域とふれあう機会づくりを実施していました。 (3) 地域住民ネットワークの整備 自治会と子ども会が連携を図る等、ネットワークの整備を実施していました。
進行管理	課題		
	親子交流の場や、家族がふれあう機会づくりを自治体と子ども会が連携を図り実施しておりましたが、コロナ禍の影響で実施できていない現状でした。また、子どもの人数が少なく、子ども会自体がなくなってしまっている地域もありました。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	昨年の保育所・小学校等に加え、今年度は自治体にアンケートを実施し、現状を把握することができたので、取手社協としてどのように関わっていくか、またどのようにすれば取手社協が住民ニーズに答えられるか調査検討を進めて参ります。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	各行動計画で掲げられているイベント等の交流活動について、子育て支援につながるようなものであれば協働連携して参ります。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
4年7月～4年12月		コロナの状況を見ながら、アンケートに回答いただいた行事等を視察させていただき、各事業との連携、取手社協との協働を検討し、取手市内の子育て支援の向上につながる事柄を検討して参ります。	
	年 月 ～ 年 月		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化・人口減少といった社会環境にあつて子育ては単に親子の問題だけではなく地域社会などの支援も欠かせないですね。親子交流の場や家族が地域とふれあひ機会づくり実現に向けた取り組みに期待します。 ・ 令和2年度の小学校等調査、今年度の自治会調査によって得られた情報をもとに、地域で必要とされる支援を捉え、取手市の子育て支援の充実につながることを期待します。 			

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和3年度		
担当者	職名	係長	氏名 宮崎江美子
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援
	取り組み	②	安心できる居場所をつくります
現状と課題	<p>・子どもの取り巻く環境の中で、親子でのふれあいの場が少なくなっています。そのため、子育て世代が安心して参加できるイベント等や、地域の中で世代間交流の機会を継続的に参加できるように、参加団体や対象者の拡大及び、PR方法について検討していく必要があります。</p> <p>・子ども達が安心して集まれる場所が不足しているため、関係機関と話し合い居場所づくりやパトロールの強化が必要となっています。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 安心できる遊び場、居場所づくりをつくります。 ・実施内容：子育て世代が必要としている遊び場、居場所、イベント等の状況調査 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：自治会、公民館等へのアンケート調査を行い情報の集約、PR方法の確認</p> <p>(2) 遊び方を学べる機会をつくります。 ・実施内容：市内においてシニア世代と地域の子ども達との交流機会の現状調査 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：自治会や高齢者の活動団体等へのアンケート調査を行い情報の集約、PR方法の確認</p> <p>(3) 遊び場見守り体制を整備します。 ・実施内容：地域の見守り体制の現状調査の継続 ・実施期間：令和4年3月まで ・達成目標：自治会やボランティア団体等への聞き取り及びアンケート調査を行い情報の集約</p>		
令和3年度 の実施状況	<p>「安心できる居場所づくり」について、コロナ禍ではありますがシニア世代とこども達の交流や見守り体制を含め、現状の取り組みについてアンケート調査のご協力を頂きました。</p> <p>送付先：自治会、障害者センターあけぼの 送付：令和3年12月13日 回収：令和3年12月27日 アンケート内容：(1) 安心できる遊び場、居場所づくり (2) 遊び方を学べる機会 (3) 遊び場の見守り体制</p> <p>以上の項目についてご協力いただいている行事等を可能な範囲で記入して頂きました。コロナウイルス感染予防の為、今年度は実施できないが、今まで行ってきたイベントや今後予定している活動も含めてご記入いただいています。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	4	<p>アンケート調査を実施 自治会の存続をどのように進めていくのか取り組みながらもシニア世代と子育て世代が交流する機会を設け、互いに孤立感の無いよう地域全体で支え合う現状を把握することができました。</p> <p>(1) 安心できるあそび場・・・公園の清掃の実施 (2) 遊び方を学べる機会・・・夏祭り、ハロウィン、クリスマス、あわんどり、昔の遊び、餅つき、折り紙工作の実施 (3) 遊び場の見守り体制・・・スクールガード、青色防犯パトロールの実施</p>	
	課題				
	・地域の中で行われている活動が継続して実施できるよう、取手社協としてどのような関わり方を進めていくのか検討し、子育て支援につなげてく必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	・安心できる居場所づくりとして、自治会、ボランティア団体等の季節ごとのイベント活動やこども食堂等の協力を得られるよう努めて参ります。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	・他の行動目標の活動計画と情報共有を行いながら、地域の中で育む「子育て支援」安心できる遊び場について協働及び、連携して参ります。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		R4年4月～R5年3月	・アンケート調査を集計を活かし具体的に行っている活動の把握を行い、子育て世代に対して取手社協としての関わり方を検討して参ります。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<p>・子供会活動がなくなっている地域が多い中、自治会やシニア世代が積極的に関わり、交流事業や見守り等が行えるサポートができればよいのでは。</p> <p>・子供の成長にとって欠かせない遊び場・遊び方を学ぶ機会などの提供支援・そして安心して遊べる場の見守り体制構築自治会などと連携し、取り組み推進に期待します。</p>					